

東日本大震災概要

東北大学大学院医学系研究科・医学部概要

平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震の概要 (平成 24 年 (2012 年) 2 月 15 日現在)

出典 消防庁災害対策本部「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災) について (144 報) 平成 24 年 2 月 14 日

地震の概要

発生日時 平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分
震央地名 三陸沖 (北緯 38.1 度、東経 142.9 度)
震源の深さ 24 km
規模 モーメントマグニチュード 9.0^{*1}
各地の震度 (最大震度 6 弱以上)
震度 7 宮城県: 栗原市
震度 6 強 宮城県: 涌谷町、登米市、美里町、大崎市、名取市、蔵王町、川崎町、山元町、仙台市、石巻市、塩竈市、東松島市、大衡村
福島県: 白河市、須賀川市、国見町、鏡石町、天栄村、栖葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町
茨城県: 日立市、高萩市、笠間市、常陸大宮市、那珂市、筑西市、鉾田市、小美玉市
栃木県: 大田原市、宇都宮市、真岡市、市貝町、高根沢町
震度 6 弱 岩手県: 大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町
宮城県: 気仙沼市、南三陸町、白石市、角田市、岩沼市、大河原町、亶理町、松島町、利府町、大和町、大郷町、富谷町
福島県: 福島市、郡山市、二本松市、桑折町、川俣町、西郷村、中島村、矢吹町、棚倉町、玉川村、浅川町、小野町、田村市、伊達市、本宮市、いわき市、相馬市、広野町、川内村、飯館村、南相馬市、猪苗代町
茨城県: 水戸市、土浦市、石岡市、常総市、常陸太田市、北茨城市、取手市、つくば市、ひたちなか市、鹿嶋市、潮来市、坂東市、稲敷市、かすみがうら市、桜川市、行方市、つくばみらい市、茨城町、城里町、東海村、美浦村
栃木県: 那須町、那須塩原市、芳賀町、那須烏山市、那珂川町
群馬県: 桐生市
埼玉県: 宮代町
千葉県: 成田市、印西市

津波の概要

3 月 11 日 14 時 49 分津波警報 (大津波) 発表
(津波警報 (大津波) が発表された津波予報区)
・岩手県、宮城県、福島県 (以上 14: 49 発表)
・青森県太平洋沿岸、茨城県、千葉県九十九里・外房 (以上 15: 14 発表)
・伊豆諸島、北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸西部 (以上 15: 30 発表)
・青森県日本海沿岸、千葉県内房、小笠原諸島、相模湾・三浦半島、静岡県、和歌山県、徳島県 (以上 16: 08 発表)
・高知県 (以上 22: 53 発表)
→以後段階的に津波警報・津波注意報に移行
→3 月 13 日 17 時 58 分、全ての津波注意報が解除

主な検潮所で観測した津波の観測値 (6 月 10 日 21 時 00 分現在)

- ・相馬最大波 3 月 11 日 15 時 51 分 9.3 m 以上^{*2}
- ・石巻市鮎川最大波 3 月 11 日 15 時 26 分 8.6 m 以上^{*2}
- ・宮古最大波 3 月 11 日 15 時 26 分 8.5 m 以上^{*2}
- ・大船渡最大波 3 月 11 日 15 時 18 分 8.0 m 以上^{*2}
- ・八戸最大波 3 月 11 日 16 時 57 分 4.2 m 以上^{*2}
- ・釜石最大波 3 月 11 日 15 時 21 分 4.2 m 以上^{*2}
- ・大洗最大波 3 月 11 日 16 時 52 分 4.0 m
- ・えりも町庶野最大波 3 月 11 日 15 時 44 分 3.5 m

^{*1}モーメントマグニチュードとは、地下岩盤のずれの規模 (ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ) をもとにして計算したもの。(規模の大きな地震を正確に表すのに有効)

^{*2}観測施設が津波により被害を受けたためデータを入手できない期間があり、後続の波でさらに高くなった可能性がある。

被害の状況

人的被害

死者 16,140 人 (内 岩手県 4,669 人、宮城県 9,471 人、福島県 1,933 人)
行方不明 3,123 人 (内 岩手県 1,316 人、宮城県 1,747 人、福島県 56 人)
負傷者 6,112 人 (内 岩手県 188 人、宮城県 4,132 人、福島県 182 人)

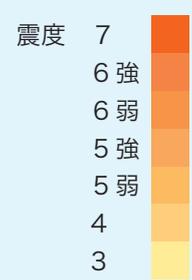
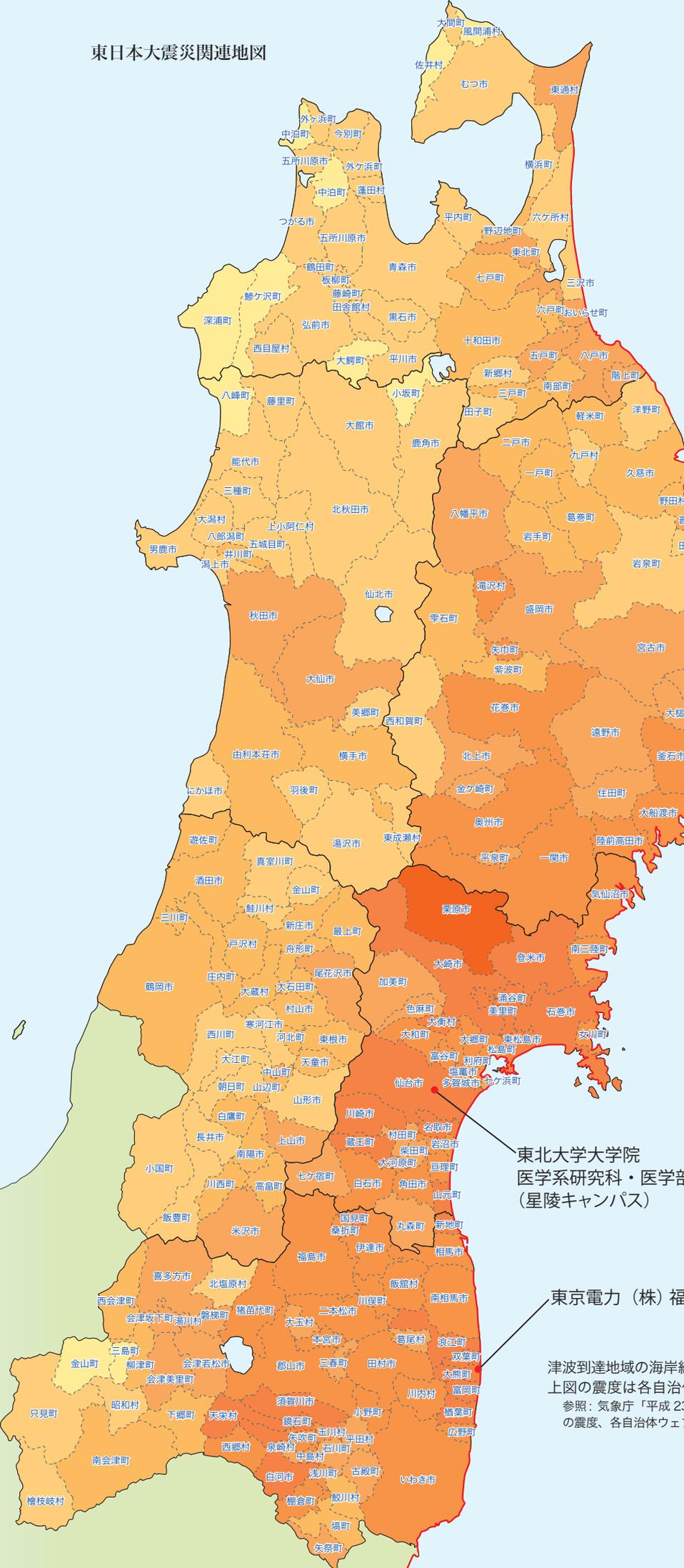
住家被害

全壊 128,582 棟 (内 岩手県 20,185 棟、宮城県 83,894 棟、福島県 20,030 棟)
半壊 244,031 棟 (内 岩手県 4,561 棟、宮城県 138,389 棟、福島県 64,017 棟)
一部損壊 691,882 棟 (内 岩手県 7,386 棟、宮城県 215,369 棟、福島県 144,825 棟)

避難者数

岩手県 1,572 人
宮城県 8,619 人
福島県 60,993 人 計 71,124 人

東日本大震災関連地図



東北大学大学院
医学系研究科・医学部
(星陵キャンパス)

東京電力(株)福島第一原子力発電所

津波到達地域の海岸線を赤色で示す。
上図の震度は各自自治体の最大震度を示す。
参照：気象庁「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」による各地の震度、各自自治体ウェブサイト、国土交通省国土地理院

宮城県津波浸水域





3月11日17時頃 仙台塩釜港より流れ込んだ津波に襲われた宮城野区中野栄のガソリンスタンド。奥には、水没したショッピングモールと白煙が見える。



3月20日 石巻市内の通りを漂流した船。*



3月20日 津波により倒された消防自動車。*



3月22日 津波が来襲した気仙沼の住宅地域。*



4月8日 セケ浜。家屋は基礎を残してなぎ倒された。



5月12日 石巻市南浜町。原形をとどめない救急車。

*は、Shibahara S. (2011) *Tohoku J. Exp. Med.* 223, 305-307. より Tohoku University Medical Press (東北ジャーナル刊行会) の許可を得て転載。

東日本大震災
点描



3月11日18時頃 仙台駅前付近。停電により信号が動かないために、渋滞が発生。車のライトが街中を赤く染めた。



3月12日11時頃 仙台市若林区新寺付近。携帯電話が使用できないため、公衆電話には長い列が出来た。公衆電話は、災害時の対応として、無料で使用することが出来た。



3月12日12時頃 仙台市青葉区愛子付近。食料品等を買うため、スーパーには2~3時間並ぶほどの行列が出来た。購入点数に制限が設けられる店もあった。



3月13日7時頃 多賀城市総合体育館。断水により、給水が行われた。人々は、大きなポリタンクをもって並び、20Lの水を得るために、半日並ぶこともあった。



3月14日5時頃 利府町のガソリンスタンド。沿岸部の製油所が津波の被害を受けた事、輸送網が寸断された事、人名救助や復旧に優先的に利用されたことからガソリンが不足。ガソリンスタンドには連日長蛇の列が出来、給油量にも制限が設けられた。



3月19日12時頃 仙台市中心部。地震発生後最初の日曜日。仙台市中心部は買い出しの人々であふれた。皆、リュックサックや大きなカバンをもち、食料品を抱えている。新鮮な野菜は貴重で、値段も高騰した。



5月12日12時頃 石巻市日和山より。地震発生から2カ月経ったが、発生直後の様に見える。形を残す家屋も、屋根の上まで水が通った後があり、地盤沈下により一部道路は浸水していた。左奥に見える青い建物が、石巻市立病院である。



12月8日14時頃 福島県南相馬付近。東京電力(株)第一原子力発電所の事故により、立ち入り禁止区域が設けられた。

学生・教職員数

学部	1,291 人	大学院	825 人
医学科	687 人 (5)	医科学専攻	652 人 (54)
1 年次	130 人	障害科学専攻	82 人 (17)
2 年次	119 人	保健学専攻	91 人 (1)
3 年次	128 人		
4 年次	98 人	※ () 内は留学生の数	
5 年次	111 人		
6 年次	101 人	教職員	
保健学科	604 人	教員	331 人
1 年次	152 人	職員	306 人
2 年次	159 人		
3 年次	145 人		
4 年次	148 人		

医学系研究科・医学部役職一覧

役職員

山本 雅之	医学系研究科長・医学部長
伊藤 貞嘉	副研究科長・副学部長
五十嵐 和彦	副研究科長・副学部長
進藤 千代彦	副研究科長・副学部長
中山 啓子	医科学専攻長
上月 正博	障害科学専攻長
石橋 忠司	保健学専攻長
石井 直人	医科学専攻修士課程長
柴原 茂樹	医学科長
吉沢 豊子	保健学科長
宮田 敏男	創生応用医学研究センター長
笠井 憲雪	動物実験施設長
山本 雅之	医学教育推進センター長
大内 憲明	評価室長

片桐 秀樹	企画室長
大隅 典子	広報室長
辻 一郎	情報基盤室長
富永 悌二	国際交流支援室長
張替 秀郎	研究安全管理室長
平野 かよ子	キャリアパス支援室長
八重樫 伸生	研究科長補佐 (研究・教育担当副病院長)
海野 倫明	医学部教育研究支援資金運営委員会委員長

医学系研究科・医学部事務部

齋藤 嘉信 (吉田隆幸)	事務長
大場 得志	総務室長
土井 弘也 (菅原昇一)	教務室長
渡邊 芳男	財務室長

備考: () は震災当時の担当者を示す。

東北大学大学院医学系研究科・医学部組織図

医学専攻	細胞生物学講座	ゲノム生物学	小野哲也
		発生生物学	伊藤恒敏
		細胞組織学	出澤真理
		分子生物学	柴原茂樹
		生物化学	五十嵐和彦
		人体構造学	出澤真理〔兼〕
	生体機能学講座	医化学	山本雅之
		生体情報学	虫明元〔兼〕
		細胞生理学	丸山芳夫
		生体システム生理学	虫明元
		分子薬理学	柳澤輝行
		機能薬理学	谷内一彦
	病理病態学講座	分子病理学	堀井明
		病理形態学	小野栄夫
		病理診断学	笹野公伸
		微生物学	押谷仁
		免疫学	石井直人
	内科病態学講座	腎・高血圧・内分泌学	伊藤貞嘉
		血液・免疫病学	張替秀郎
		感染制御・検査診断学	賀来満夫
量子診断学		高橋昭喜	
放射線腫瘍学		(山田章吾)	
分子代謝病態学		岡芳知	
消化器病態学		下瀬川徹	
循環器内科学		下川宏明	
感染病態学		服部俊夫	
呼吸器病態学		(貫和敏博)	
発生・発達医学講座	遺伝病学	松原洋一	
	小児病態学	呉繁夫(土屋滋)	
	小児外科学	仁尾正記	
	婦人科学	八重樫伸生	
	産科医学	八重樫伸生〔兼〕	
外科病態学講座	先進外科学	佐藤成〔特命〕	
	腫瘍外科学	大内憲明〔兼〕	
	整形外科学	井樋栄二	
	生体調節外科学	佐々木巖	
	消化器外科学	海野倫明	
	心臓血管外科学	齋木佳克	
	泌尿器科学	荒井陽一	
	麻酔科学・周術期医学	海野倫明〔兼〕	
	緩和医療学	中保利通〔特命〕	
	救急医学	久志本成樹	
	形成外科学	館正弘	
神経・感覚器病態学講座	神経内科学	青木正志	
	神経外科学	富永悌二	
	神経病態制御学	高橋明	
	精神・神経生物学	曾良一郎	
	精神神経学	松岡洋夫	
	皮膚科学	相場節也	
	眼科学	中澤徹	
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	小林俊光	
社会医学講座	医学情報学	辻一郎〔兼〕	
	環境保健医学	(佐藤洋)	
	医療管理学	濃沼信夫	
	公衆衛生学	辻一郎	
	国際保健学	上原鳴夫	

		法医学	舟山真人	
		医学統計学	山口拓洋	
障害科学専攻	機能医科学講座	運動学	永富良一	
		行動医学	福土審	
		肢体不自由学	出江紳一〔兼〕	
		てんかん学	中里信和	
		内部障害学	上月正博	
		高次機能障害学	森悦朗	
		音楽音響医学	市江雅芳	
保健学専攻	基礎・健康開発看護学講座	看護アセスメント学	丸山良子	
		看護教育・管理学	朝倉京子	
		老年保健看護学	川原礼子	
		地域ケアシステム看護学	末永カツ子	
		地域保健学	南優子	
		国際看護管理学	平野かよ子	
	家族支援看護学講座	成人看護学	佐藤富美子〔兼〕	
		がん看護学	佐藤富美子	
		緩和ケア看護学	宮下光令	
		小児看護学	塩飽仁	
		精神看護学	齋藤秀光	
		周産期看護学	佐藤喜根子	
		ウイメンズヘルス看護学	吉沢豊子	
	医用情報技術科学講座	医用物理学	田村元	
		画像情報学	町田好男	
		医用画像工学	森一生	
	生体応用技術科学講座	画像診断学	石橋忠司	
		画像解析学	齋藤春夫	
		放射線検査学	千田浩一	
		放射線治療学	石橋忠司〔兼〕	
	基礎検査医科学講座	分子機能解析学	林慎一	
		感染分子病態解析学	川上和義	
		内分泌応用医科学	高橋和広	
	臨床検査医科学講座	病理検査学	鈴木貴	
		臨床生理検査学	進藤千代彦	
		分子血液学	清水律子	
		病態検査学	菅原明(吉田克己)	
	附属創生応用医学 研究センター	がん医学コアセンター	細胞増殖制御	中山啓子
			発生発達神経科学	大隅典子
		脳神経科学コアセンター	分子病態治療学	宮田敏男
			細胞治療	阿部俊明
			遺伝子医療開発	宮田敏男〔兼〕
		代謝疾患医学コアセンター	代謝疾患学	片桐秀樹
プリオン病コアセンター			神経化学	堂浦克美
		病態神経学	北本哲之	
附属動物実験施設			笠井憲雪	
医学教育推進センター			金塚完	
環境遺伝医学 総合研究センター		情報遺伝学	有馬隆博	
		分子疫学	栗山進一	
		発達環境医学	仲井邦彦	

備考：()は3.11震災当時の教授で、既に退職されていることを示す。
さらに、当該分野の後任教授が決まっている場合には、その氏名を併記している。

